



# +らiふ ニュース

## 令和元年度 冬号



(編集・発行)令和2年2月発行  
 相談支援事業所 宮城野雲母倶楽部+らiふ  
 〒983-0012 仙台市宮城野区出花1丁目3-11  
 TEL/FAX : 022-254-6757  
 HP : <http://kilala.biz/>  
 編集責任者 秋保 明

## 令和元年度 宮城野区障害者自立支援協議会の取り組み

### 高砂・岩切周辺エリア会

令和元年度高砂・岩切周辺エリア会は、「障害者が地域で生活し続ける」という視点から、高砂地区で活動している当事者活動団体「高砂ございん会」と合同で開催しました。当事者、民生委員、障害福祉サービス事業所、地域包括支援センターが参加し、調理や食事を通して障害のある方と地域の支援者とが交流し、相互理解を深め合いました。

#### 高砂ございんとは？

心の病を抱える本人・その家族が安心して話をしたり、前向きに生きることができるよう交流できる場があればという思いから宮城野区の高砂地区に住む方々で立ち上げた会です。

参加された方々から「普段、交流する機会がなかった方々に会え、色々な話が聞けてよかった」などのご意見をいただきました。障害のある方が、地域で一生活者として暮らしていることを理解するきっかけとなり、このような機会を積み重ねることで障害のある方が安心して生活できる地域づくりにつながる事が共有されました。



### 実務者ネットワーク会議 全体会

令和元年度実務者ネットワーク会議 全体会では、障害のある方や介護者である家族の高齢化に伴う相談が様々な場面で増えていることから、「障害者の高齢化」をテーマに、本人・家族・支援者がそれぞれの立場から現状や課題に対してどのような思いをもっているのかを知る機会として開催しました。前半はご家族、支援者からお話をいただき、後半はグループワークで前半のお話で感じたこと、障害者の高齢化についてそれぞれの立場で感じていることなどを話し合いました。

参加された方々には、「高齢の母親が倒れた時に30年ひきもっていた本人がみつきり、支援に入っている」と現在進行形で支援を行っている方がおられる一方で、「地域には気になる人がいるが掘り起こしに難しさを感じている」という方もおられました。

それでも、ご家族からの「地域の人に知ってもらうために、小さい頃からなるべく一緒に外に出掛け、本人のことを隠すことなくご近所付き合いをしていた」とのお話に、どこかにどんな形でも良いのでつながっておくことが大切だと感じた方が多くおられたことが大きな成果でした。



# 宮城野区障害者自立支援協議会 全体協議会

障害者本人や家族などの介護者の高齢化、障害者と高齢者のみの世帯など、高齢化社会における新たな課題に対して、障害や高齢など従来の枠に捉われない支援の必要性が重要になっています。区障害者自立支援協議会では高齢分野における区地域ケア会議と合同で開催し、複雑化した課題解決に向け分野を越えた連携システムの構築を目指しています。

宮城野区障害者自立支援協議会からは、実務者ネットワーク会議全体会、エリア会、障害者相談支援事業所等連絡会議の報告を行いました。宮城野区の地域課題として、以下の課題を報告しました。

## ○障害をもつ方の家族の高齢化

…親亡き後の支援。金銭管理の担い手やキーパーソンの不在。

## ○多問題家族への支援

…多機関でかかわることが多く役割分担が難しい。

## ○ライフステージに対応した、途切れない支援

…乳幼児期・学齢期・成人期・高齢とライフステージごとに相談傾向や課題がある。

支援機関の相互理解や情報共有等、多機関連携が必要であり顔の見える関係づくりが大切。

## ○障害特性に応じた支援

…行動障害を持つ方への対応。高次脳機能障害の方など障害特性や生活のしづらさについての共通理解が支援者間で必要。

## ○グループホームのマッチング

…支援体制が施設によって異なる。

空き状況などタイムリーな情報の収集が困難。

## ○人材育成

…幅広い相談に対応できる相談員の育成が必要。

区障害者自立支援協議会・区地域ケア会議では、医療機関・区社会福協議会・区民生児童委員協議会・区連合町内会・高齢分野・障害分野・教育分野など多種多様な職種の方に委員として出席していただいております。

「高齢者と障害者が共に暮らす世帯への関わりを考える」というテーマとして

「80代の母親と障害をもつ50代の子が同居する世帯」という架空の事例をもとに意見交換を行いました。

委員の皆様からいただいたご意見の一部を紹介します。

○事例のような世帯を把握しているが、介入が難しい。問題が大きくなってから露呈されることが多い。

○介入のタイミングが大切だと思う。周囲の人は将来のことも見越して心配するが、本人はいまいま困っておらず、支援者介入の意味を理解できずに拒否的になってしまう。本人が現に困っていることから入り関係性を作っていくのも良いと思う。

○地域の人たちの気付きは多いが情報を持った人は点在している。気付いた人はどこに相談したら良いのかと言う声も聞かれる。その点がつながるために、最初に相談を受けた支援者が拾い上げることが出来るよう互いがどんな機関なのか知ることで、ネットワークを作っていけたらよいと思う。

## 投稿コーナー

このコーナーでは利用者の皆様のお声を載せていきます！

ペンネーム・そらさんの体験談から見えないつらさや不便さ、だれにでも起こり得ることであること、どのように乗り越え今の自分があるのかを伝えていきます。

### 【 会話の練習 】 そらさん No.10

ある日、外で見知らぬ夫婦が「雨が上がってきたな」と声をかけあっているのを目にしてとても驚きました。両親が他愛のない会話をするのを見たことがなかったからです。むしろ「お前は天気の話しかしないのか」と私は親に怒られた経験ならあります。

最近私自身どんどん人との会話に自信が無くなり、人とのつきあいを難しく考えるようになってきて孤独との矛盾に悩むようになりました。ひどい時はなぜか基本のお礼さえ思っても言葉に出にくいのです。思うに、社交の力は家族同士の穏やかな、小さな喜びの発見を伝え合う小さな積み重ねから育てられていくのかもしれない。後でどこかで学べて自然に応用できるものでしょうか。